

## 常設展示室 1 作家略歴

<p><b>織田 定男</b> ODA, Sadao</p> 1969年–
---------------------------------------

南砺市（福光）生まれ。1990年、国立高岡短期大学産業工芸学科漆工芸専攻卒業。漆芸家横山幸史文に師事する。1991年、日本現代工芸美術展初入選。1992年、日展初入選。1995年、日本現代工芸美術展で現代工芸賞受賞。2003年、日展会友となる。2006年、日本現代工芸美術展で本会員賞受賞。2009年、当館常設展示室で個展開催。2014年、となみ野美術展 2014 でとなみ野美術大賞を受賞。2021年、日展特選。

--

<p><b>志観寺 範従</b> SHIKANJI, Noriyoshi</p> 1947年–
---

南砺市(井波)生まれ。1967年、尾長保に師事。同年、日展初入選。1969年、富山県展で大賞受賞。1986年、日展特選。1992年、工芸美術日工会展で会員賞受賞。1993年、工芸美術日工会展で審査員を務める。2000年、日展特選。工芸美術日工会展で高島屋社長賞受賞。2004年、日展で審査員を務める。富山県工芸作家連盟委員長。2005年、工芸美術日工会展で内閣総理大臣賞受賞。2006年、富山県功労表彰。2007年、日展審査員。

--

<p><b>三助焼</b> SANSUKEYAKI</p> 1906年–1973年
---

谷口彗三（1906–1973）三助焼三代。父太七郎の三男に生まれる。陶技を叔母の嫁ぎ先である高岡二塚の黒田焼・黒田長作に学んだ後、出町の四谷卯吉、金沢の大根草路、安藤陶仙らに付いて絵付・釉合・陶彫を修業した。1930年より福山に戻り、太七郎より三助焼の指導を受ける。三助焼の名声を高めその普及に努めた。

<p><b>高瀬 孝信</b> TAKASE, Takanobu</p> 1931–2001年
---

学生時代を福野町で過ごす。昭和 25 年、斎田梅亭の内弟子となり。截金の技術を習得。昭和 33 年、京展初入選後、西本願寺派截金仏画師として独立。昭和 53 年、第 25 回日本伝統工芸展初入選。昭和 56 年、正会員となる。昭和 61 年、第 33 回日本伝統工芸展で日本工芸会総裁賞受賞。平成 8 年、第 43 回日本伝統工芸展で高松宮記念賞受賞。仏教美術の一技法であった截金を工芸美術の域まで高めた斎田梅亭の意思を受け継ぎ、飾棚や茶器、屏風に繊細で典雅な作風を展開した。

--

<p><b>芳里 七朗</b> HOURI, Shichiro</p> 1937年–
--

砺波市生まれ。1951年、京都に出て京都府立陶工高等技術専門校図案科と成形科で学ぶ。翌年、七代高橋道八門に入る。1955年、伊東翠壺の内弟子として修業。以後、京展、日展、日本現代工芸美術展などを中心に作品を発表する。1960年、日展初入選。1966年、日本現代工芸美術展初入選。1968年、楠部彌弑が主宰した青陶会に参加。1970年、京展受賞。1974年、伏見区深草鞍ヶ谷に陶房を持ち独立。1976年、現代工芸美術作家協会会員となる。1979年日展会友となる。

--

<p><b>細川 毅</b> HOSOKAWA, Takeshi</p> 1941年–
---

南砺市（城端）生まれ。1980年、日本伝統工芸展初入選。1983年、日本伝統工芸富山展初入選。1984年、日本工芸会正会員となる。同年、日本伝統工芸木竹展入選。1986年、県展初入選。1993年、第 40 回日本伝統工芸展で日本工芸会会長賞受賞、文化庁買い上げとなる。’99 となみ野美術展で北日本新聞社賞受賞。2003年、当館常設展示室で個展開催。2008年、個展「用の美 細川毅 木工芸展」（松村外次郎記念庄川美術館）2015年、第 62 回日本伝統工芸展優秀賞受賞。

<p><b>山下 郁子</b> YAMASHITA, Ikuko</p> 1954年–
---

南砺市（城端）生まれ。1977年、東京造形大学テキスタイルデザイン科卒業。四本貴資、島貫昭子に師事する。1979年、郡上工芸研究所卒業。紬縞織・緋織の重要無形文化財保持者 宗廣力三に師事する。1986年、第 33 回日本伝統工芸展初入選。1988年、日本伝統工芸富山展で高岡市長賞受賞。以後、受賞を重ね、2004年、第 51 回日本伝統工芸展で日本工芸会総裁賞受賞。日本工芸会正会員となる。となみ野美術展 2009、2016 でとなみ野美術大賞受賞。2017年、第 64 回日本伝統工芸展で高松宮記念賞を受賞。2018年、個展「こころを織る KIMONO 山下郁子展」開催（福光美術館）。紫綬褒章受章。

--

--

<p><b>米道 正幸</b> YONEMICHI, Masayuki</p> 1952年–
--

南砺市（福野）に生まれ。1967年、井波彫刻の修行に入る。1972年、独立。1981年より、木工芸を手掛けるようになる。1982年、日本伝統工芸展富山展初入選。1986年、日本伝統工芸展初入選。1988年、伝統工芸木竹展初入選。1991年、日本工芸会正会員となる。1996年、伝統工芸木竹展にて文化庁長官賞受賞。1997年、庄川町教育文化表彰。2005年、伝統工芸木竹展で監査委員を務める。2006年、当館常設展示室で個展開催。2008年、個展「となみ野アート 米道正幸展」（北日本新聞社砺波支社）2015年、個展「米道正幸展」（高岡市高臺寺）2020年、個展「米道正幸展」（松村外次郎記念庄川美術館）

<p><b>表 立雲</b> OMOTE, Ritsun</p> 1921年–2019年
--

小矢部市に生まれる。194年、砺波に疎開していた書家・大澤雅休に師事する。1948年、玄土社を結成・主宰する。富山県展での書の参加運動を行う傍ら富山県書道家連盟を創立に尽力した。1956年、毎日書道展審査員となるのを期に、金沢市に生活基盤を移す。翌々年、石川県書作家協会を創立。その後も書道芸術院展、毎日書道展などで活躍するが、組織の中で制約のある作品作りに不自由を感じ、中央書壇から退く。以降玄土社を中心に、前衛書、古典研究等、独自の活動を続けた。

--